

企画展

暮らしを描く

ちいさきものはみなうつくし



●金山平三《諏訪の桔梗屋にて（大森啓助像）》1920年代前半、油彩・板／●川端謹次《蟹と子供》1952年、油彩・キャンバス／●古家新《山荘の雪》1936年頃、油彩・キャンバス／●中西勝《メキシコ フチタンの市場》1967年、油彩・紙／●長尾和《渚の女たち（大毛島）》1980年、油彩・キャンバス ※すべて神戸ゆかりの美術館蔵

2026 9.21 月・祝 → 11.23 月・祝

〈入館料〉一般200(150)円／大学生100(50)円／高校生以下無料(学生証などをご提示ください)

※()内は30名以上の団体料金

- 神戸市在住の65歳以上の方は、年齢と住所が証明できるもののご提示で無料
- 障がい者手帳またはスマートフォンアプリ「ミライロID」などのご提示で無料
- 小磯記念美術館、神戸ファッション美術館の当日入館券(半券)をお持ちの方は割引あり

〈休館日〉月曜日(ただし9月21日、10月12日、11月23日は開館)、9月24日、10月13日
〈開館時間〉午前10時～午後5時(入館受付は午後4時30分まで)

神戸ゆかりの美術館

KOBE ARTISTS MUSEUM

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中2丁目9-1 TEL:(078)858-1520 FAX:(078)858-1522 <https://www.city.kobe.lg.jp/yukarimuseum/>

特集

没後10年 長尾和



画家は時として、自分自身あるいは知らない誰かのささやかな日常に感興を覚え、身近でありふれた営みの中に美を追求しようとします。彼らが描く生活の小さな断片—食事の様子、暮らしぶりがうかがえる室内、労働する姿、つかの間の休息や余暇の情景—には、同じ時代と社会に生きる人々への親しみと愛情が込められており、造形美の探求とは異なる視点から人間とは何かを語りかけてくれます。

このたびは、当館コレクションから“暮らしの匂い”が漂う作品を選んでご紹介します。画家たちが人々の日常をどのように絵画として切り取ろうとしたのか、ぜひ会場でその思いを感じてください。



特集 没後10年 長尾和

長尾和(1931-2016)は、香川県生まれの洋画家です。神戸市で小学校の教員として教鞭を執る傍ら、瀬戸内の自然やその地に生きる人々の生活をテーマに制作活動を行いました。このたびは、没後10年という節目にあたり、当館所蔵の初期作品や代表作を通じて、彼の画業を振り返ります。

①川西英《「新神戸百景」85 西新開地》1952～61年、水彩、ポスターカラー・紙／②川端謹次《港の喫茶室》1991年、油彩・キャンバス／③青木一夫《裏窓》1971年、油彩・キャンバス／④小松益喜《画室》1950年代後半、油彩・キャンバス／⑤田村孝之介《静物》1958年、油彩・キャンバス／⑥長尾和《丘の人たち（モロッコ）》1996年、油彩・キャンバス

※すべて神戸ゆかりの美術館蔵

会期中のイベント

学芸員と巡る ギャラリーツアー

日時：10月10日(土)、10月24日(土) 13:30～14:00

場所：神戸ゆかりの美術館展示室(受付前集合)

参加費：無料(ただし、一般・大学生は当日利用できる観覧券が必要)

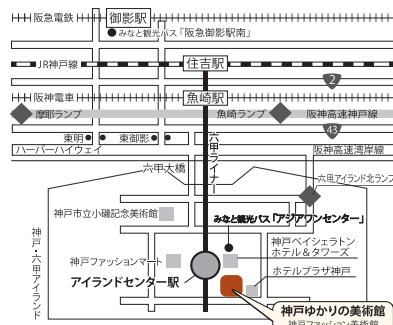


赤ちゃんと一緒に美術館へ行こう！

会期中の毎週木曜日、赤ちゃんと一緒にご来館の方は全員、団体割引料金でご入館いただけます



交通案内



電車

JR「住吉駅」、阪神「魚崎駅」乗り換え、六甲ライナー「アイランドセンター駅」下車南東へ徒歩3分

バス

阪急「御影駅」南側から、みなと観光バス131系統で「アジアワンセンター」下車南へ徒歩5分

※車で越越しの方は近隣の有料駐車場をご利用ください

神戸ゆかりの美術館

KOBE ARTISTS MUSEUM



SNSも随時更新！



kobeyukarin



kobeyukarin

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中2丁目9-1 TEL: (078) 858-1520 FAX: (078) 858-1522 <https://www.city.kobe.lg.jp/yukarimuseum/>